

所信・抱負等

氏名： 西良浩一

徳島大学病院(以下本院)は社会環境変化に即した経営基盤の強化、2040 年を見据えた新地域医療構想への対応、働き方改革の推進、若手医療人確保などの様々な課題に直面しています。私は、病院長補佐、副病院長として培ってきた組織運営経験に加え、診療科長として整形外科領域をリードする実績と本院が持つ個性とポテンシャルを活かし、課題を克服し本院のミッション実現に貢献したいと決意し立候補いたしました。私の座右の銘は「Nothing is Impossible」です。強いリーダーとして多くの課題を職員皆様と克服し「世界に誇れる・地域に根ざした大学病院」を推進致します。

運営方針総論

まず人的交流や広報活動を通じて組織の透明性を高めてまいります。社会に開かれた、県民国民に信頼される大学病院として持続的に発展するよう誠心誠意努める所存です。さらに県内随一の大学病院として、県内各施設と協調し、徳島県全域医療の向上に努めます。その目標として以下の5つのアクションプランを立てました。

プラン1：持続可能な安定した病院経営

増収減益改善のため、経営戦略会議を充実させます。新規の経営情報分析システムを用い経営データをリアルタイムで分析し、タイムリーな収支対策を立て経営改善を図ります。経営状況の見える化を進めることと改善策の共有は職員に経営の重要性を認識してもらう上で必要です。労働人口減少には、タスクシフト・シェアを加速することで対応していきます。安定した経営基盤に立脚した持続可能な高度医療の提供体制を作ります。

プラン2：アカデミアとしての大学病院

各診療科の高度化や新しいセンター化医療、医科・歯科連携医療を国内最先端の未来へ進めます。本院が得意とするロボット支援手術、ゲノム医療およびバーチャルリアリティー（拡張・複合現実）医療、内視鏡・低侵襲医療は一つの促進手段です。また医科・歯科領域フレイルに対する科学的アプローチは当院の最も得意とするところです。総合臨床研究センターを核として、生命科学のアカデミアが結集する蔵本地区各分野や医工・医光・医農連携、産官学連携センターとの密なる交流のもと、医療イノベーションを推進します。

プラン3：高度な医療教育

本院には教育病院として一貫した医療人材の育成が求められています。本院のすべての教育関連センターと協力し、全人的でチーム医療ができる高度な専門医療人の育成とキャリア形成支援に努めます。新しく開設された共創プラザ内のクリニカルアナトミーラボや VR

メディカルトレーニング・ステーション、さらに石井キャンパス BIRC に開設されるメディカルトレーニングラボを駆使することで、魅力的で新次元の医学教育・研修プログラムを構築します。これら取り組みは、若手医療人確保に大きい武器になります。

プラン 4：県内医療連携

総合 MZ の強化は最重要課題であり、中国・四国大学病院としては最大となる 1,000 ベッドを超える救急医療から高度最先端医療を担う医療のフロントラインへ発展させます。総合 MZ の強化は若い医師の県内研修増加の鍵となります。また、本院並びに県内各医療施設の機能と役割を明確化、共有し、地域連携エコシステムを構築します。患者支援センターの ICT 機能を高め、よりスムーズな地域連携に進化させます。本院医療のブランディング力と県境に位置する病院群との関連をさらに強化し、医療圏域拡大を計ります。それにより県人口減による医療ニーズ減に対応致します。

プラン 5：職員が生き生きと活躍できる職場作り

本院の高度医療は多様な職員の優れたチームワークの賜物です。全職員が病院のミッションを共有し、生き生きと活躍し成長を実感できる職場作りに励みます。そのために職員の心理的安全性や働きがい重視した働き方改革と労働環境改善に取り組みます。職員が誇りを持ち自慢にできる病院になることこそが、本院での研修やキャリア形成を希望する若手医療人を増やす王道と考えます。